



十和田市出身。平成17年に市消防団第4分団5部下切田に入団。平成22年8月24日、青森県消防操法大会に市代表で出場し、見事優勝を遂げる。同年11月12日全国大会に出場。大会では指揮者を務める。みかど化工(株)に勤務。趣味はサーフィン。

祖父や父の跡を継ぎ、地域の安全を守る

消防操法大会の市代表に選出され、訓練が平成21年10月頃から始まりました。選出されたメンバー6人とも20代から30代でゼロからのスタート。「気をつけ」の掛け声から習いましてね。訓練は、平日午前5時から7時まで毎日行い、大会直前は日曜日の午前中も行われました。みんな仕事もあったので、ほぼ休みなしの日々でした。

消防操法大会とは火災消火を想定した基本操作の美しさや正確さなどを競います。わたしはリーダー的役割である指揮者を務めました。指揮者の指示ですべてが始まります。周囲を見ながら的確に指示を出すことを意識しました。初めて大会の流れを映像で見るとき、メンバーみんな自分のできるのかという不安がありました。それでも訓練以外にもみんな

なで集まって自分たちの映像を見て反省会をしながら支え合ってきました。一見個人的でバラバラに見えるですが、やるときはやる。操法でみんながひとつになったと感じます。愉快でいい仲間にも恵まれました。

目標は全国大会出場。一番のヤマは県大会で、力が入りました。優勝と聞いて真つ先に喜んだのは中川原分団長です。誰よりも先に「ヤッター」と叫んでいましたね。わたしたちは毎日のように分団長に叱られていましたので、意外でした。訓練には欠かさず参加し、選手のことを一番に考えてくれたと思います。これまで支えてくれた市消防署職員や分団長、そして勤務先のみなさんには本当に感謝しています。

全国大会に出場して、技術面の差はほとんどないと感じました。経験による差が大きく、少しのミスが順位に影響します。自分が全国大会で感じたこと、訓練で培った技術を次の世代に教えていくことで市の消防技術の向上につなげていきたいと思っています。

消防団に入団したのは自然な流れでした。祖父や父も消防団員なので自分もそうなりたいと思っていました。小さいときから消防団員である父の背中を見て素直に「カッコいいな」とあこがれていました。



▲県大会で優勝したときの様子。(上段左から)久保尚道さん、斗澤清孝さん、市消防署職員。(下段左から)豊川幸成さん、下佐寿文さん、高田康弘さん、川村浩貴さん

▼「個性的で愉快的な仲間たちです」大会出場メンバーのことを語ると思わず顔がほころぶ。



今まで、5、6回ほど火災現場に出動しました。消防団活動は日頃の訓練も大切ですが、家族や職場、団員である仲間のバックアップが必要です。活動を優先できるのは周りの協力があつてこそだと思います。

これからの消防団員として、地域の安全を第一に考え、火災があつたら迅速に対応できるように心がけ、がんばっていききたいです。

